SUMS
Suzuka University
of Medical Science

鈴鹿医療科学大学
〒510-0293 鈴鹿市岸岡町1001番地1
TEL. 059-383-8991
http://www.suzuka-u.ac.jp/

No. 102
2018. 4. 27

平成30年度入学式を挙行しました

髙木純一理事長

豊田長康学長

4月3日(火) 白子キャンパス講堂にて入学式を挙行し、学部630名、大学院24名、計654名の新入生が新たな一歩を踏み出しました。

豊田長康学長は、「本学の教育の理念は『知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成』です。医療・福祉スペシャリストとして高度な知識と技能を身につけることはもちろんですが、それだけではなく人間性も育まなければいけないということです。人間性や思いやりの心は、医療・福祉の現場で患者さんや介護を必要とする人々とコミュニケーションをとり、態度で示すことではじめて育まれるものです。同時に、スペシャリストになるためには、それぞれの専門領域の資格を取得する必要があります。この最初の1年間、最初の半年間が皆さんにとって最も大切です。この半年間に良い学習習慣を身につけてください。本学は目標達成のために一歩一歩着実に学習しようとする皆さんに、全教職員が一丸となって一生懸命ご支援します」と、式辞を述べました。

続いて、髙木純一理事長は「AIの進歩等により社会は大きく変化しますが、医療・福祉が重要な仕事であることは変わりません。特に日本では超高齢化が進み、医療・福祉の仕事はより重要性を増します。初心を忘れずに、国家資格や専門資格を取得するよう、この大学でしっかり学んでください」と、激励の祝辞を贈りました。

また、末松則子鈴鹿市長 他来賓の方々より、温かい祝辞を頂戴しました。新入生を代表して保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻の平山優香子さんが「未来に向かって日々研鑽に励み、努力を惜しまず自らを向上させることに尽力します」と、宣誓しました。

〈庶務課〉

＜建学の精神＞
科学技術の進歩を真に
人類の福祉と健康の向上に役立たせる

＜教育の理念＞
知性と人間性を兼ね備えた
医療・福祉スペシャリストの育成

＜教 育 目 標＞
① 高度な知識と技能を修得する
② 幅広い教養を身につける
③ 思いやりの心を育む
④ 高い倫理観を持つ
⑤ チーム医療に貢献する

本学は鈴鹿工業高等専門学校と学術研究交流に関する協定を締結しました

2月16日(金)本学は鈴鹿工業高等専門学校と学術研究交流に関する協定を締結しました。鈴鹿工業高等専門学校にて行った調印式には、新田保次校長と本学の豊田長康学長が出席し協定書に署名を交わしました。

この協定は、近隣地域における産業振興、イノベーション創出及び人材育成を目的として、それぞれの特色を活かした医学及び工学の分野における学術研究に係る連携をするものです。

両校は以前より鈴鹿商工会議所の産学官交流会にて交流があり、また校舎が隣接していることから、昨年は3回に渡り医工連携研究会を開催し情報交換をしてきました。今回の協定によりその活動を本格的に加速させ、新しい医療機器の開発等を目指す中で医工連携を体現する共同研究の実施や、若手人材の育成、健康・医療・福祉分野における地域の活性化に貢献していきます。

本学 豊田学長と鈴鹿工業高等専門学校 新田校長

＜研究振興課＞

日本がん看護学会賞受賞とアジアがん看護学会設立感謝状

看護学部長　大西 和子

2月3日(土)千葉・幕張メッセにて、第32回日本がん看護学会学術集会が開催され、日本がん看護学会賞を受賞しました。この賞は、多年に渡りわが国のがん看護の向上や当学会の発展に大きく貢献した個人に対して与えられるもので、これまでに本賞を受賞した人は私で5人です。大変名誉なことです。また、2015年11月に韓国ソウル市にて開催された第2回アジアがん看護学会学術集会では、アジアがん看護学会創設者として感謝状をいただきました。

アジアがん看護学会にて

私は、国際がん看護学会の理事をはじめアジアがん看護学会設立など、国際がん看護活動や国際交流に貢献したことが受賞の大きな要因であると思います。国際がん看護学会は欧米、中東、アフリカ、南米、アジアなど世界中のがん看護師が共に知識・情報の共有をはかり、がん看護の質向上に資する場として存在しています。そこで、日本のがん看護の紹介、研究発表などを通じ、国際交流を図りました。また、アジアにおいては、アジア人口の増大とともに高齢化が進み、がん患者人口が増大するなかで、がん看護師の役割が大きくなっており、研究・教育・実践・政策などを共有し協働していくためのアジアがん看護学会を2013年に設立しました。そこには、アジアの9カ国のがん看護学会が所属しており、また、個人会員も参加しています。このアジアがん看護学会設立に対して感謝状をいただきました。

日本がん看護学会にて

国内においては、2002年に北陸・東海地方ではじめて、大学院修士課程のなかで「がん看護専門看護師」養成を開始しました。現在、多くのがん看護専門看護師が全国で活躍しており、社会的にがん看護専門看護師の重要性が認められるようになりました。

これらの国内外における功績が評価され、この受賞となったことに感謝しております。

第25回東アジア診療放射線技師学術大会にて放射線技術科学科教員が国際貢献賞を受賞

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授　**武藤 裕衣**

2018年3月10日(土)～11日(日)に、中華民国嘉義市 嘉義長庚紀念醫院（病院）にて、第25回東アジア診療放射線技師学術大会が開催されました。本大会は、台北市から台湾高速鉄道でおよそ1時間20分ほどに位置する嘉義市の嘉義長庚紀念醫院を会場として開催されました。嘉義市は、2015年に公開された映画「KANO」でも知られる台湾南部第三の都市で、会場である嘉義長庚紀念醫院は、2001年に設立された病床数1,369の大規模施設でした。

同大会には日本をはじめ、韓国、中華民国など東アジアからの診療放射線技師が参加し、診療放射線技術の発展につながる教育講演や研究発表を始め、シンポジウムによる活発な議論が行われました。大会へは私をはじめ、放射線技術科学科から教員2名が参加しました。今回私は、「From career anchor survey results, analyze career support measures required by radiological technologists in Japan.」の演題名で口述発表を行いました。韓国や中華民国の参加者から質疑をいただき、世界の診療放射線技師のおかれている状況を知り、今後の研究の方向性を確認することができ、充実した学会参加となりました。

最後に、本大会において国際貢献賞をいただきました。このように表彰をいただけたのは、いうまでもなく個人の力によるものではありません。日々見守りご指導くださり、今回の学会への参加も快く承諾していただいた藤野明俊学科長、そして日頃から支えてくださっている大学関係者、本学科の皆様のおかげであると、身に染みて感じています。心より感謝申し上げます。また、このような貴重な機会を与えていただきました日本診療放射線技師会関係者の皆様、調査研究にご協力いただきました三重県診療放射線技師会会員の皆様にも深く感謝申し上げます。

本大会で得た知識を今後の学生指導に還元するとともに、診療放射線技術の発展に貢献できるよう精進して参ります。

図書館ベストリーダー賞 ポイントカード表彰式を行いました

附属図書館長　**藤原 芳朗**

1月31日(水)白子キャンパス1号館学生ラウンジにて、図書館ポイントカード表彰式を行いました。これは図書館の利用に応じてポイントが付与される制度として2017年度から導入した試みです。本学図書館内の本を借りると1ポイント（但し、一度に複数冊借りても1ポイント)、さらに、書評を書くと内容に応じて1～5ポイントが付与されます。

今回、ポイントの上位者に附属図書館より「図書館ベストリーダー賞」の賞状と、学友会より記念品として図書カードの贈呈がありました。表彰を受けたのはいずれも薬学科の学生で、最優秀賞に2名、優秀賞に1名の計3名の学生が選ばれました。表彰式では薬学部長の祝辞の後、激励の言葉を贈りました。

2018年度も引き続き図書館ポイントカードを実施する予定ですので、昨年以上に奮ってチャレンジしてください。

第10回中部放射線医療技術学術大会に参加して

11月3日(金)～4日(土)岐阜市にて第10回中部放射線医療技術学術大会が開催され、放射線技術科学科の学生が参加しました。安田鋭介教授、川野誠教授、柴田幸一教授の研究室に所属する4年生の学生（3月に卒業）が発表し、優秀賞を受賞しました。以下に感想を紹介します。

優秀賞　演題名：PET/CT検査における腕の位置ずれが散乱線補正に与える影響
所　属：保健衛生学部 放射線技術科学科　安田研究室
発表者：高岡美咲、長谷川真未、山岸沙綾

多くの診療放射線技師の方々が集まる中、学生の立場で自分達の研究を発表させていただく機会を得たことはとても貴重な経験でした。さらには、優秀演題に選出していただけたこと、とても嬉しく思います。本研究は、名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院放射線科の林 絵美先生のご指導の下、進めて来ました。学生の私達では理解が及ばなかった部分を補っていただき、本当にお世話になりました。教室の先生をはじめ、ご協力いただいた方々の支援もあり、優秀演題に選出されたと感謝しています。

春からは私たちも診療放射線技師の一人として診療の場で働きます。卒業研究や学術大会を通して得た経験を、今後の励みにして頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

優秀賞　演題名：手術時遺残針のMRI検査室内での体内挙動および画像化に関する研究
所　属：保健衛生学部 放射線技術科学科　川野研究室
発表者：坪井雅直、長谷川智也、服部有登、前川弘幸、河内正裕

口述発表において優秀賞に選ばれたことに大変嬉しく思います。これも常日頃から熱心にご指導くださった川野教授をはじめ、名古屋市立大学病院中央放射線部の皆さま、川野研究室の皆さんなど多くの協力のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。私たちは5人のグループで多くの失敗をしましたが、諦めることなく研究を続けることができたのは良い経験であったと思います。今後は大学生活で培った経験、知識をこれからの人生に活かしていきたいと思います。

優秀賞　演題名：グリッドレストモシンセシスの有効性評価
所　属：保健衛生学部 放射線技術科学科　柴田研究室
発表者：比嘉由李菜、河北萌、兜金麻由美

先輩の診療放射線技師の方々が多く集まる本学会で優秀賞に選ばれたのは、大変嬉しく思います。また、受賞の驚きとともに今後への責任もひしひしと感じられました。初めは分かりにくかったことが研究を進める中で段々と理解できるようになり、研究の面白さが感じられる日々でした。議論を深めながら、それぞれの得意分野に従って仕事を分担し一緒にまとめ上げるという中で、お互いの信頼感を高めるのに非常に良い機会になったと思います。今後は、本学で身につけた研究に対する基本姿勢を忘れずに、診療放射線技師として社会に貢献していきたいと思います。

＜放射線技術科学科＞

公認心理師養成のためのカリキュラム改革

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻長　今井 晥弌

臨床心理学専攻では、公認心理師養成のためのカリキュラムが公表され、それに対応させるために在学生カリキュラムの変更を行いました。

公認心理師養成においては、実践中心のカリキュラムを組むことが要請されており、本専攻でもその理念に適った変更を加えました。特筆すべきことは、本専攻のコンセプトである「自己理解・他者理解」教育を促進させるために、2コマ続きの実体験型講義が可能になったことです。この講義では、受講生が小グループになって、コラージュ療法、園芸療法、フィンガーペインティング、そして箱庭療法を実体験し、各自が作った作品をグループで鑑賞しあうことにより、自分の心の状態に気づき、自分とは異なる他受講生の個性的表現に驚き、また自分及び他者の個別性を理解し、尊重することをより一層可能にするためのプログラムです。このプログラムは、こころの相談センターに箱庭療法室及びグループセラピー室が設置されたことにより可能となりました。

ところで、昨年度臨床心理学専攻は2度目の卒業生を送り出すことができ、5名が大学院に進み、そのうちの4名が新設の本学大学院医療科学研究科医療科学専攻 臨床心理学分野で学ぶことになりました。彼らは実体験型「自己理解・他者理解」教育をすでに終えており、この4名はこころの相談センターにおける即戦力に近い状態にまで育っています。

こころのクリニック、こころの相談センターの両施設が整備されている公認心理師養成系大学・大学院は全国的に見ても2～3校のみです。私たち臨床心理学専攻はこの両施設を十分に活用し、質の良い公認心理師養成教育を行います。

改訂コアカリキュラムに準じた実務実習の在り方に関する研修会の開催

薬学部 薬学科 教授　八重 徹司

薬学教育モデル・コアカリキュラムは、医療、保健、福祉等における社会的ニーズに貢献できる薬剤師育成等の観点から、2013年度に改訂されました（改訂コアカリ）。2019年度には、この改訂コアカリに準拠した実習が病院と薬局で行われます。新しい実務実習につきましては、「薬学実務実習に関するガイドライン」が提示され、ガイドラインに対応した準備が必要となります。そこで今回（3月18日(日)）、薬学実務実習に関する連絡会議の副座長である鈴木匡先生（名古屋市立大学大学院薬学研究科教授）にお越しいただき、改訂コアカリに準じた実務実習の在り方に関する研修会を、白子キャンパス6号館6101講義室にて開催しました。研修会は日曜日の13時より開催しましたが、多くの指導薬剤師の先生方（約90名）が参加されました。

新しい実務実習は、今まで以上に参加体験型の学習を基本としています。薬局で11週間の実習を終えると、2週間の準備と振り返り期間を経て、病院で11週間の実習を行います。また、代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）については、実習の全期間を通して継続的に関わることになります。薬学生たちは、これら疾患の処方せんや治療薬そして患者さんと関わりながら、臨床薬学的な知識を充実させ患者中心の医療について学ぶことになります。

夏のオープンキャンパス開催のお知らせ

夏のオープンキャンパス日程

- 第1回 6月16日(土)
- 第2回 7月21日(土)
- 第3回 8月10日(金)
- 第4回 8月11日(土)

2019年度入試に向け、オープンキャンパスを開催します。

学部学科の説明や施設の見学、個別相談会など、充実した内容をご用意しています。本学に興味のある方、将来、医療・福祉関係の職業に就きたいと思っている方は、ご家族や友達をお誘いあわせてぜひご参加ください。詳細については、本学ホームページをご覧ください。　＜入学課＞

医療人底力実践（展開）を実施しました

多職種連携推進委員会　医療人底力実践（展開）担当
保健衛生学部 理学療法学科 准教授　浅田 啓嗣

2017年11月の４日間の集中講義で医療人底力実践（展開）の授業を行いました。この授業は底力教育３年次のプログラムとして2016年度に初めて実施され、今回で２年目となります。授業では、模擬症例の患者ケアを課題として、自職種の専門性と他職種の理解を深めること、多職種連携の意義を認識すること、を目的に、１チーム５〜６名で編成した全学科混成チームによるワークと学科別ワークを織り交ぜて行いました。

今回は各学科合わせて65名の学生が参加しました。初日、学生たちは多職種連携の概要とチームで検討する模擬事例についての説明を受けました。２日目は全学科混成チームでのアイスブレイクでコミュニケーションを図り、その後、学科別に模擬事例における病態の理解と各専門職としての役割についての意見交換を行いました。３日目の全学科混成ワークでは模擬事例に対し、それぞれ職種の立場から意見を出し合い、熱心に議論を進め、ケア計画の立案を行いました。ワークの４日目（最終日）には、模擬患者を交えたカンファレンスを実施し、病状やケア計画をわかりやすく説明することの難しさを感じる良い体験ができたと思います。

模擬患者を交えたカンファレンスの様子

この授業を履修した学生からは「学科内の教育では体験できない他学科の学生との意見交換が新鮮だった」、「他の職種の専門性や特徴を実践の中で理解できた」、「自分の考えを広げることができた」等の意見が寄せられました。また多職種理解だけでなく「自分の専門性の重要さに気づけた」「知識を持つだけでなく患者さんの状況に合わせて対応する能力が必要だと学んだ」といった、自職種の専門性に対してのコメントも多く見られました。

参加した学生が今回の経験や気づきを活かし、卒業や資格取得に向けてよりいっそう励んでくれることを願っています。

『学生』×『地域』カフェまるみえ新聞に掲載

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授　中東 真紀

管理栄養学専攻H&Nのメンバー

医療栄養学科 管理栄養学専攻の学生５名が、三重県農林水産部農産物安全・流通課、食の安全・安心班と１年間の交流を持ち、三重県内で発行されているフリーペーパーの企画「『学生』×『地域』カフェまるみえ新聞」に参加しました。「食品表示」をテーマに、ママと赤ちゃんのために「妊婦さんが不足しがちな栄養」や「表示・食品の豆知識」を紹介しました。学生は本学のサークルH&N（Health＆Nutrition）に所属し、健康と栄養に関する活動をしています。2017年度は三重県農業研究所の見学・研修会に参加しました。

三重県農業研究所では、栽培方法の工夫により作られた人工透析の患者さんのための「低リン米」や、特定のビタミンを増量した野菜なども研究されています。これから栽培される三重県の農作物が、人間の知恵と自然の力を借りて、栄養成分を自由に増減できる可能性を学習しました。食事制限のある患者さん、必要な栄養素が足りない方にとって、夢のような食物です。

今回、参加した学生からは「食品表示の見方を知ることで、自分が母親になったときに安心して子育てができると思った」「三重県農林水産部の方々と交流が出来たことや、三重県農業研究所で学んだことは、大学生活において貴重な体験であった」「安全安心のページが出来上がった喜びや達成感は大きく、強く心に刻まれた」などの声がありました。温暖化の影響を受けて自然環境が大きく変化していく今世紀、未来の食物のあり方を考えることが出来た学生活動になりました。　三重県農業研究所　http://www.pref.mie.lg.jp/NOUGI/

＜管理栄養学専攻＞

医療福祉学科主催

「第1回スクールソーシャルワークに関する教育公開講座」を開催しました

保健衛生学部 医療福祉学科 助教　冨田 千晶

2月17日(土)白子キャンパスにて、医療福祉学科主催の「第1回スクールソーシャルワークに関する教育公開講座」を開催しました。県内の教育委員会、小中学校・高等学校の教員、スクールソーシャルワーカーの方々など110名が参加されました。

第1部では「スクールソーシャルワークの現状と課題」について野田正人先生（立命館大学 産業社会学部 教授）よりご講演いただきました。第2部では「『チーム学校』におけるスクールソーシャルワーカーの役割」についてシンポジスト3名の先生方とともに、実際の学校現場の声を報告していただきました。

参加者からは、スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの役割の違いが分かった、実際の学校現場の課題が見えてきたという声や、スクールソーシャルワーカーの普及を願う声などがあげられました。今回の講演会を通じて、スクールソーシャルワーク の必要性を改めて理解し、本学における専門性の高いソーシャルワーカー養成について再確認することができました。

＜医療福祉学専攻＞

三重県慢性腎臓病対策県民公開講座に参加して

保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻 2年　花木 友里華
堀江 美佑

3月4日(日)三重県総合文化センターにて、三重CKD委員会主催の三重県慢性腎臓病対策県民公開講座「小さな腎臓があなたの健康を守る ～はじめてみよう身近な生活習慣の見直し～」が開催されました。本学の管理栄養学専攻からは、ボランティアとして1年生2名、教員1名が参加しました。この公開講座では、学術講演とともに相談・体験コーナーが設置され、三重県栄養士会の中野芳恵先生はじめ三重大学医学部附属病院、松阪市民病院の管理栄養士の先生方の指導のもと、私達は減塩料理教室の食品展示コーナーを担当しました。

展示コーナーでは、減塩啓発を目的に調味料や加工食品、コンビニのお弁当などの市販食品を展示し、食品のエネルギーと食塩相当量を表示しました。来場者は普通の調味料と減塩調味料を比較したり、普段何気なく食べている食品に含まれる食塩量に驚かれたりと、展示に関心を持ってくださいました。また、「エネルギーと食塩相当量のどちらを重視して食材を選べばいいか」などの質問をいただいたり、ご自身が普段実践している減塩の工夫を紹介してくださる方もいました。質問に対して上手く説明できるか不安でしたが、大学で学んだことを活かし、来場者に伝えることができました。料理教室では、管理栄養士の先生が、おいしい出汁のとり方や減塩ちらし寿司を作りながら減塩のコツを紹介されました。親身になって相談を受け、質問に的確に答える先生方は、私たちが憧れる理想の管理栄養士であり、将来、私達もこのような管理栄養士になりたいと強く思いました。そのために今後、大学で勉学に励んで管理栄養士としての知識を身につけ、また今回のような経験を積み重ねていきたいと思います。

“米国における看護学生の海外研修”のご報告

看護学部 国際交流委員会
看護学部 看護学科 助教　森山 小統子
林 暁子

看護学部初となる国際交流企画「2017年度米国における看護学生の海外研修」に看護学部生6名が参加しました。3月17日(土)から10日間にわたるプログラムであり、カリフォルニア州ロサンゼルス近郊のバイオラ大学と周辺の医療福祉施設で看護を学び、ホームステイや現地の看護学生との交流を通して異文化理解を深めました。

急性期病院であるプリスビテリアン・インターコミュニティ病院での研修では、学生が小グループとなり現地の看護師に同行しながらアメリカの病棟看護師の役割や環境の違いを実際に学びました。また、マグネットホスピタル（看護の質がハイレベルであるという認証を受けた施設）であるセント・ジョセフ病院では、質の高い看護を提供するための組織づくりやエビデンスに基づく看護実践について学ぶとともに、キリスト教精神に根差したケアについて学ぶことができました。さらに、日系人の多く入所するサウスベイ敬老看護施設では高齢者とともにアクティビティに参加して交流を深めました。

バイオラ大学では看護学生に混じって講義に参加し、設備の整ったスキルズラボでの演習風景を見学する中で、学生自身が主体的に学ぶ姿勢の大切さに気付く機会となりました。看護学生との交流を通して自国の文化や医療・看護について情報交換し、同じ看護職を目指す学生同士が刺激し合うよい機会ともなりました。

参加した学生は皆、自身の大きな成長や視野の広がりを実感し、海外で看護職として活躍したいという熱い思いや看護専門職としてのモチベーションの向上につながり、今後もこのような研修が継続できるよう看護学部として取り組んでいきたいと思います。

実験動物感謝式を行いました

動物実験施設運営委員会 委員長　三浦 俊宏

3月9日(金)2017年度の実験動物感謝式を千代崎キャンパス実験動物施設横の動物慰霊碑前で行い、80名を超える学生と教職員が参加しました。今年度に尊い命を捧げてくれた実験動物数は、マウス2,263匹、ラット362匹、鶏胚300、モルモット6匹と、マウスは増加しラットは減少しました。本学では動物愛護の精神に基づき、動物に無用の苦痛を与えないように細心の配慮を行っています。動物実験に関する講習会を必修とし、また実験計画が本学の動物指針に適合しているかを厳正に審査しています。式は参加者全員の黙祷後、慰霊碑に菊の花を捧げ、実験動物の霊を供養しました。お忙しい中ご参集いただきありがとうございました。（本学動物実験指針および動物倫理委員会規定はホームページに公開しています。）

初期臨床実習に参加して

保健衛生学部 理学療法学科 3年　**中村 沙衣**

2月19日（月）から5日間に渡り初期臨床実習を行ってきました。この実習は2年次に開講される、初めての臨床実習です。実習で一番印象に残ったことは、実際に患者さんの介助を経験し、学生同士の練習との違いを痛感したことです。指導者の先生に助けていただきながらROM（関節の動く範囲）の測定や起き上がり動作、車いすへの移乗動作の介助を経験しました。健常者と患者さんとでは関節の動きの抵抗感に違いがあり、それを実際に感じることが出来ました。また、様々な疾患やそれに対するリハビリテーションを直接見ることで、これまで学習してきた知識をより深めることが出来ました。

さらに、コミュニケーション力や信頼関係を築くことの大切さを教えていただきました。臨床の場で働く理学療法士の先生方は、それぞれの患者さんに適した話題や対応をすることで信頼関係を築き、長期間に渡るリハビリテーションに対する患者さんの意欲を高め、治療を効率的に進めることが出来ると感じました。

今回の初期臨床実習で学んだことや感じたことを活かし、大学での今後の学習や実習に励んでいきたいと思います。

桜の森白子ホームにてMT温灸によるボランティア実践

高齢社会を迎えて、医療人である鍼灸師も高齢者を治療対象とする仕事が増える傾向にあります。思いやりで高齢者患者さんに接し、スムーズにコミュニケーションが行え、満足かつ納得してもらえる医療行為ができるのは重要な課題です。鍼灸サイエンス学科の2年生、3年生7名が後期試験終了のあと（1月27日～2月23日の期間）桜の森白子ホームにてMT温灸（右図）によるボランティア活動を実践しました。以下に参加した学生の感想を紹介します。

（保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 教授　廖 世新）

鍼灸サイエンス学科3年　小田 星矢

温灸のボランティアを行い、様々な方と触れ合いお話をすることができ、とても貴重な体験になりました。自分がしたことへの感謝を伝えていただけることに感動し、いつもしてもらっていることを当たり前だと思わずに、感謝の心をもって生活していこうと思えたボランティアでした。

鍼灸サイエンス学科3年　川村 真悟

ボランティアを通じて、実際の治療現場とほぼ同じ体験が出来たことはとても自信となり、貴重な経験になりました。力加減や熱さなど、利用者さんからも優しくフォローしていただいたおかげでとても楽しく出来ました。この経験を糧に、今後の勉強に活かしていきたいと思います。長期休暇などに、またぜひ温灸治療のボランティアを行いたいです。

鍼灸サイエンス学科4年　川田 大陸

僕は介護施設で鍼灸治療をするところを初めて見て、鍼灸の治療だけでなく利用者さんにも気を配らないといけないと思いました。今回2～3人の患者さんに温灸をさせていただき、思っていたよりも大変でしたが、気持ち良いと仰っていただいたので良かったです。

鍼灸サイエンス学科4年　森　雄祐

私は今回のボランティア活動で、初めて介護の現場を訪れました。施設の利用者さんは、鍼灸治療センター実習で接する患者さんよりも高齢で対応の仕方が大きく異なりました。利用者さんの多くは聴力が弱く、かなり大きな声で話さなければならず意思の疎通が難しかったです。高齢社会の一端を見て驚きや戸惑いがありましたが、この経験は高齢の患者さんに接するヒントになると思いました。

看護学部看護学科の4年間の学年進行を終えて思うこと

看護学部長　大西 和子

2014年4月に本学に看護学部看護学科が開設され、三重県では4番目の看護系大学となりました。それからの4年間、紆余曲折しながらも大きな問題なく学年進行を終了できたことに感謝しております。本学の教職員の皆様のご支援・ご協力に対し、特に看護教員は本学での教育経験がない中で、皆で考え・工夫しながら教育してきたことに対し、心からお礼申し上げます。3月14日に学位授与式を迎え、第1期生86名全員が出席したことを大変嬉しく思います。第1期生は、相談する先輩がいないため自分たちで考え、意思決定しなければならない事が多くありましたが、いつの間にかチャレンジ精神が培われ、大きく成長しました。

看護学生は、講義・演習で基礎知識を身につけた後、半年から1年かけて臨地実習を行います。臨地実習は、忙しい動的状態である現場でいろんなことを考慮し状況判断をしなければならないため、学生にとって緊張状態にあります。しかし、そこでの実習指導のあり方が学生を成長させていきます。そのため、実習は大切な教育の場であると思います。一方、十分な基礎知識をもって実習に送り出す必要性を感じています。それは、基礎知識不足が国家試験結果に反映されているからです。今後、国家試験対策を含め実習前の教育のあり方を検討する必要があると考えています。

個人的には、若い学生と接し私自身の学びや気付きが多くありました。いつの時代も世代間ギャップはあるものですが、お互い歩み寄り刺激し合うことは人間社会の形成に大切なことです。今後とも、看護学科の発展のために学生と教職員が協働していくことを切に願っています。

少人数教育一期生の巣立ち

医用工学部 医用情報工学科長　山本 皓二

卒業研究発表・挨拶の様子

医用情報工学科は医学医療に関する知識と情報処理技術を身に付け、医療分野の様々な課題に取り組むことができる人材を育成している学科です。卒業生が担う守備範囲は広く、学生が自分の進路に対する希望や興味を抱く教科内容は多様です。このことに対応するため、医学医療に関する基礎と情報処理に関する最低限の技能・知識を共通の土台として、その上に自分が進む進路にとって必要となる専門的な知識と技能を研鑽する教育プログラムを展開しています。大学生活は4年間ありますが、4年生になるとすぐに就職活動が始まります。その時までに学生が希望する進路に対して目標を達成するための教育を施さねばなりません。この限られた時間の中で目標に合致した教育をするために、入学後の早い段階で個々の学生の資質や課題を見抜き、教員全員が彼らの希望を知り、学生達と一緒になって彼らを育み、自らも研鑽していく学科となることを目指しています。このことから2014年度に少人数教育を開始し、学生の能力や希望に応じて柔軟に教育の内容を変えることができる科目群を追加しました。今年、その一期生が元気に巣立っていきました。教員との親密感が強く、ボーリングが好きな教員がいることを知りボーリング大会を企画して招待してくれたり、卒業間際には各研究室を巡って研究室風景をビデオレターとして残してくれたりしました。個別教育は教員側の負担が大きくこれからも試行錯誤が続きますが、素直で快活な好成人として巣立ってくれたことを嬉しく思っています。

卒業研究発表・優秀賞授与の様子

平成29年度学位授与式に参列して

保健衛生学部 医療栄養学科 教授　吉子 健一

平成29年度学位授与式が3月14日に白子キャンパス講堂にて挙行されました。早春のうららかな陽光の下、臨床検査コースからは46名が巣立っていきました。豊田学長から、今年度学部卒業生は本学の特長の一つである医療人底力教育を受けた初めての卒業生であることが紹介され、「知性と人間性を兼ね備え、研究マインドをもち、コミュニケーション力を有する医療人になってほしい」とのお言葉をいただきました。また、髙木理事長からは、「今後大きな変化が予想される社会に対応できる医療・福祉のスペシャリストになってください」とのご祝辞を頂戴しました。

その後、千代崎キャンパスにおいて、森下芳孝コース長から卒業生一人一人に学位記が授与されました。教員からのお祝いの言葉に続き、卒業生からは教員、友人、クラスに対する思い出や感謝の気持ちが述べられました。在校生からのプレゼントに加え、卒業生が1年次に綴った「3年後の自分へ」が配布されました。臨床検査技師を目指して本学に入学した当初の気持ちはどのようなものだったでしょうか。「初心忘れるべからず」。この手紙は、新たなスタートを切る自身への良いメッセージとなったことでしょう。卒業生の皆さんには、多くの方からいただいた激励の言葉を心に留め、新たな目標を設定し着実に歩んで行ってほしいと思います。本学で培った知識、技術をさらに発展させ、医療の第一線で活躍されることを期待します。

＜臨床検査学専攻＞

大学4年間を振り返って

平成29年度卒業生（医用工学部 臨床工学科）　朝倉 正晃

大学に入学した当初は、これまでの友人が周りに1人もいない、慣れない1人暮らし、大学という全く新しい環境、また臨床工学技士についてあまり詳しく知ることなく入学したこともあり非常に多くの不安がありました。しかし、入学して間もなく多くの友人ができ、専門的な授業及び実習を重ねることで臨床工学技士の役割、重要性を知り魅力を感じました。将来は、仲間と共に臨床工学技士として医療に貢献していきたいという思いが日に日に強くなりました。

1～3年生前期の間は、単位取得のため友人とグループで勉強したり、勉強の合間に息抜きで遊びに行ったりと、楽しく大学生活を過ごしていました。しかし3年生後期では、非常に多くの学内実習、またそれに伴い多くのレポート、更には定期試験と寝る間を惜しんで取り組んだ思い出があります。

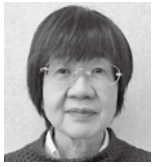
4年生では、卒業研究、就職活動、国家試験と翌年から社会人となるうえで非常に重要な1年でした。卒業研究では、これまで扱ったことのない細胞を用いた研究を行ったこともあり、全くの基礎から書籍や文献で勉強しながら取り組みました。就職活動では、先生方の指導のもと徹底的に面接対策をしていただいたかいもあり、地元の総合病院に就職することができました。国家試験では、毎日集中して勉強すると共に定期的に息抜きの時間を作りメリハリをつけて勉強しました。合格を知るまでは不安でしたが、無事合格し臨床工学技士になることができました。

鈴鹿医療科学大学での4年間は先生方、友人の支えもあり自分自身大きく成長できた濃い時間であったと思います。4年間指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。

新任教職員のご紹介

保健衛生学部　放射線技術科学科　准教授　**東　出　　了**

本年４月より放射線技術科学科の教員として着任いたしました。私は、19年間、名古屋市立大学病院で診療放射線技師として働いてきました。臨床現場では各職種の専門性がより高くなり、チームで働く機会や重要性も増していると感じています。本学には医療人底力教育といった魅力あるカリキュラムがあります。私の専門的知識や経験を活かして、人材育成に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



保健衛生学部　医療栄養学科　助手　**一　見　啓　子**

平成30年４月１日より、医療栄養学科臨床検査学専攻の助手に着任いたしました。以前の病院ではICT（院内感染制御チーム）の臨床検査技師として、耐性菌などの感染対策に長く従事してきました。これまでの臨床経験を活かして、学部の先生方の下で、皆様のお役に立てればと願っています。仕事に精一杯頑張ろうと思いますので、ご指導よろしくお願い致します。

保健衛生学部　理学療法学科　教授　**美　和　千　尋**

本年４月より理学療法学科に着任しました。来年度開設予定であるリハビリテーション学科作業療法学専攻の準備を行います。作業療法の専門領域は精神障害における作業療法で、統合失調症や認知症の患者の治療に携わっていました。今後、作業療法学専攻の開設準備で、皆さんには様々なご援助をいただくことになりますが、よろしくお願いします。

保健衛生学部　理学療法学科　准教授　**島　崎　博　也**

本年４月より理学療法学科に着任いたしました作業療法士の島崎博也です。来年新設されます作業療法学専攻の設置準備の担当をさせていただきます。これまでは介護保険分野の通所リハビリテーションにて、作業療法士としてリハビリを行ってきました。これまでの経験を活かし、学生教育に尽力していきたく思います。教員の経験もなく至らぬ点が多々あると思いますが、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

保健衛生学部　理学療法学科　助教　**伊　藤　和　寛**

本年４月より保健衛生学部理学療法学科助教として着任致しました。これまでは病院で理学療法士として働いてまいりました。臨床現場で感じてきた様々な疑問を深く考え、解決・改善に向けた方策を立てられる様に努めて参りたいと考えております。本学の諸先生方、学生とともに成長していきたいと考えております。至らぬ点が多くご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導の程どうぞよろしくお願い致します。

保健衛生学部　医療福祉学科　助教　**赤　川　　力**

本年４月より保健衛生学部医療福祉学科助教に着任しました。これまで精神科や小児科、内科やリハビリテーション科等の医療現場において心理職として勤務してきました。これらの経験を基に本学の発展と人材育成に務めたいと思っております。また、私自身も附属こころの相談センターや附属こころのクリニックにおいて自己研鑽を重ねていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

薬学部　薬学科　准教授　**榎　屋　友　幸**

本年４月より、薬学部薬学科の准教授に着任いたしました。3月までは、三重大学医学部附属病院にて、臨床薬剤師として約10年間、臨床や研究を行ってきました。今後は教員として、優れた薬剤師を三重県から輩出するべく努めていきたいと考えています。また、三重大学病院との連携により、救命救急・集中治療分野においてリバーストランスレーショナルリサーチを実践し、医療薬学の発展に努めていきたいと考えています。

薬学部　薬学科　助手　**森　本　正　大**

本年４月より、薬学部薬学科の助手に着任いたしました。これまで富山大学薬学部にてポスドクとして物理系研究室で分析学を専門とした研究および学生実習などを担当して参りました。微力ではありますが、培ってきました知識および経験を活かして、学生の皆さんの勉学面での学生生活をサポートできるよう努力していきたいと思います。

看護学部　看護学科　教授　**郷　良　淳　子**

本年４月に、看護学部看護学科に着任いたしました。専門は精神看護学です。何分わからないことも多くあるかと存じますが、臨床看護実践に役立つ研究を行いながら、看護、特に精神看護学の魅力や大切さを学生に十分に理解してもらえるような教育を行っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学部　看護学科　助教　**永　田　佳　子**

本年４月より看護学部看護学科の教員として着任いたしました。看護師として20年を超える臨床経験を積み、今年度から教育に携わることになりました。担当は基礎看護学です。

臨床現場の様々な状況の中で、看護対象者に適切な援助をするために基礎となる学びを諸先生方のご指導を受けながら支援していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学部　看護学科　助手　**服　部　桃　子**

本年４月より看護学部看護学科の助手として着任いたしました。主に成人看護学を担当します。これまでは、病棟看護師や実習指導員をしてきました。自身の経験を活かし、看護の魅力・面白さや学ぶ楽しさを伝えられるよう努めます。ともに学ぶ姿勢を大切に、学生の力になれるよう関わっていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

学生相談室通信

学生相談室長　**綾野 眞理**

新年度を迎えて

新年度が始まりました。それぞれ、いろいろな思いで新しい年を迎えていらっしゃることだと思います。清々しい気持ちで張り切っている人もいれば、あまりパッとしない気分の人もいるかもしれませんね。新入生の皆さんにとっては、“はじめて”の連続で毎日がドキドキ、ワクワクでしょう。

実は、学生相談室もいくつか変化がありました。少しドキドキ、ワクワクしています。まず、相談員の顔ぶれがこれまでの２名の先生方に変わって、新しく３名の先生方（女性２名、男性１名）になりました。皆さん臨床心理士の資格を持つこころの専門家です。次に、白子キャンパス学生相談室開室日が１日増えて４日になります。これまで時間割の都合で利用することのできなかった人にも利用しやすくなるのではないかと思います。また、開室曜日も変更になります。新年度から千代崎キャンパス学生相談室は月曜日、水曜日、金曜日、白子キャンパス学生相談室は火曜日、水曜日、木曜日、金曜日に開室します。パンフレット、ポスター、大学HPなどでも随時お知らせしますので、詳しくはそちらをご覧ください。

以上のように、学生相談室もいろいろと変わりましたが、変わらないことがあります。それは、「学生相談室はいつも皆さんの味方だ」ということです。どうぞ気軽に相談に来てください。

メールフォームからの相談申し込み
QRコード（スマホのみ）

「土俵は、にょきん？」

この４月の大相撲の春巡業（京都府舞鶴市）で、ちょっとした事件があったの知ってるよね。土俵の上で挨拶をしていた市長さんが倒れたため、複数の女性（看護師さん）が土俵に上がり、救命措置をしていたんだ。その時、「女性は土俵から下りてください」と場内アナウンスがあったんだ。え～ッ、な～に、それ。そんなことがあるの？ 人命が大事でしょ。女性たちも多少戸惑っていたものの、アナウンスには従わず救命措置を続けたお陰で、市長さんは助かったんだ。後で相撲協会は、「人命にかかわる状況には不適切な対応でした」と謝罪コメントを出したけど、「土俵は女人禁制」という姿勢は崩さなかった。

「女人禁制」？「にょにんきんぜい」とも読むらしい。略して、「にょきん」？　これはウソ。でも、出入り禁止は、「出禁」と言うんだから、「にょきん」ということにデキンこともないかな。辞書で調べてみると、さすがに「にょきん」はなかったけど、「宗教修行の地域・霊場などへの女性の立ち入りを禁止する風習」とあった。昔は、富士山も比叡山も高野山も女人禁制だったとも書いてあった。

でも何で今頃「土俵」が女人禁制なんだろう。「伝統を重んじるから」とか「神聖な場所なので」とか「神事なので」とか。まともな理由が見当たらない。男尊女卑が罷り通ってた江戸時代や明治時代じゃないんだからね。そもそも明治以降、神道の最高神は天照大神なんじゃないの。だとしたら、女性の神様を最高神にしてるわけでしょ。神事が女性を遠ざけること自体おかしいよね。

「土俵の神様が女性で、女性が立ち入ると神様が嫉妬するから」なんて、真面目な顔して言ってる人がいたけど、今や全国の神社の神職の15％近く（約2,000名）が女性なんだって。宮司（神社の責任者）だって500名くらいいるらしいよ。しかも、女性の神職や宮司はどんどん増えているらしい。

男女同権、男女共同参画の世の中、相撲だけが特別な訳はないよね。お相撲さんが胡坐をかくのは普通だけど、伝統の上に胡坐はかかないでほしいよな～。「伝統とは守るものではなく、作り上げて行くものだ」なんちゃって。おじさんも時には、「カッコいー！」「ゴッツアンで～す」ついでに、女性も胡坐をかかないでね。これって、「にょきん」かな？

日本薬膳学会主催による薬膳講演会を開催しました

3月31日(土)四日市都ホテルにて、日本薬膳学会による薬膳講演会「薬膳からみた食と健康セミナー」を開催し、食や薬膳に興味のある方々176名にご参加いただきました。

薬膳講習会会場の様子

当日は、特別講演として服部学園理事長の服部幸應先生をお招きし、ライフワークの食育啓発活動や東京オリンピックに向けた食材のお話など、タイムリーかつ重要な話題についてユーモアを交えながらご紹介いただきました。

また、ランチには「日本料理 都」特製 春の健美和膳ランチを、鍼灸サイエンス学科の髙木久代教授の解説で参加者の皆さまにご賞味いただきました。

服部学園理事長
服部幸應先生の講演

＜日本薬膳学会＞

第４回 駅伝大会を開催しました！

学友会・薬学部 薬学科 3年　**才木 瑠華**

昨年12月23日(土)に、第4回目となる「駅伝大会」を開催しました。当初10月下旬に実施する予定でしたが、台風の影響により12月の開催となった駅伝大会には、5人1組で25kmを走り順位を競う「競争しよう部門」に5チーム、12.5kmを5～10人で楽しく完走をめざす「完走部門」に15チームがエントリーし、2部門･合計185人が競技者として参加しました。

大会は、開会式に続いて学長による号砲を合図に競争しよう部門からスタート。選手は多くの方に見守られながら、白子キャンパスと桜の森公園からなるコースに飛び出して行きました。競技が始まるとコース沿いからは応援の大きな声も聞こえ、また、自分のチームが走り終えたあとも、まだ走っているチームを熱心に応援する姿も見られました。

さらに走り終えた選手は、駅伝大会の名物となりつつあるお汁粉を食べながら、学生同士や学生と教職員で交流を深めました。

競技の結果は、競争しよう部門で軟式野球部が、完走しよう部門でフットサル部がそれぞれ優勝し、閉会式では各チームが沢山の賞品を受け取り記念撮影も行いました。

来年度はもっと参加チーム数を増やし、多くの方が駅伝大会に参加してもらえるように頑張ろうと思います。最後になりましたが、競技者の皆さま、そして、朝早くから会場設営などの準備を手伝ってくださったスタッフの皆さま、本当にお疲れさまでした。

行事予定

2018年5月～8月

5月12日（土） 補講日
19日（土） 補講日
28日（月） ～30日（水）春期定期試験と解説
6月1日（金） 春期定期試験と解説
2日（土） 補講日
7日（木） 春期定期試験と解説
9日（土） 補講日
16日（土） 夏の第1回オープンキャンパス
23日（土） 春期追・再試験
7月7日（土） 補講日
17日（火） ～18日（水）補講日
20日（金） 補講日
7月21日（土） 夏の第2回オープンキャンパス
23日（月） ～31日（火）前期定期試験
8月1日（水） ～7日（火）夏期定期試験
前期・夏期定期試験の解説
8日（水） 夏季休業（～9月6日）
交通安全講習会
10日（金） 夏の第3回オープンキャンパス
11日（土） 夏の第4回オープンキャンパス
11日（土） ～19日（日）夏期一斉休暇
23日（木） AO入試1期
24日（金） ～30日（木）夏期・前期 追・再試験